

UTA会 だより

第8号

■幹事長の挨拶

久保明子

木の字

早いもので十二月の十四回UTA会が近づいてきました。今年も沢山のこと学びました。

この一年間を振り返りますと学びのスピードも加速している気がします。

磁場・反転の実験・実践、私には本当に難しいものがありましたが、そんな中でも、愛のTシャツを着て、体にも良い水もセラミックの愛のコップで美味しいただけるようになり、楽しみがありました。そして、その上、最後のきわめ付けは木の文字で学べたことでした。

私にとっては大変苦しい一年

でしたが、このタイミングで木が届けられ、母を通して、自分の間違いに気づかされたことは、長い長い時間がかかりましたが、学んでこれたことに感謝するばかりです。

木を無料で田池留吉から全

ての方にプレゼントがありました。このような世界が本当にありました。このだと驚きました。また、UTAブックの主催でスカイプでの瞑想会も感動でしたね。家に居ながらにして届けられ、何処に居ても共に学べる機会をいたしました。学びが形の上でも進化していると実感する凄い時代になりました。

また、来年の三月のUTA会が出版記念セミナーになります。磁場・反転の本の予告もホー

ムページに掲載されて、もうご存じのことと思いますが、UTA会だよりが届く頃には、新たなつた爽やかな表紙で私達に届けられるようです。みなさん、買つて手にする日を心待ちにしていることでしょう。

最後になりましたが、丁度この時に学びに出会うチャンスに恵まれた新しくUTA会員になつた学びの友と共に学べることも嬉しいですね。

十二月のUTA会楽しみに待っています。



愛の草書体

UTA会風景

■第十一回UTA会の開催状況

二〇一二年五月二十七日から二十九日まで、琵琶湖グランドホテルで第十一回UTA会が開催され、約七百二十名の会員が参加されました。

今回も、反転の実践を中心にセミナーが開かれました。

初日は、久保幹事長の挨拶に続き、田池先生の講話がありました。冒頭に「反転をしたことがない人は手を上げてください」の問い合わせがありましたが、反転をしたことがない人は、そんなにいませんでした。

講話では、「頭で理解しようということはやめてください。頭では絶対

にわかりません。頭で、ああじゃこうじゃとやっている人は、どんどん遅れていきます。どんどん遅れるだけではなくて、むしろ悪くなつてきます。反転をやらない人は、もうセミナーに来なくていいと、はつきりと申し上げます。皆さん、軽く考えています。と言つて、難しいことではないんです。ただ、やるかやらないかだけなんです。やりもせずに頭を

回して自分なりに理解したことを信じていこうとしている。それほどに皆さん方は己が高いんです」という厳しい話から始まりましたが、とにかく素直に言われた通りに実践することの大切さを話されました。

休憩のあと、五項目の反転の実習がありました。まず、一番目の水の実験をやつていない人ということで、初めて参加された方が一人出て、水道水を飲んで味の変化を感じたり、0リングテストを行いました。その

あとは、希望の人が数名ずつ前に出て、同じく水の実験を数回行いました。その中で、「ここでできなくても、少しでもできるという自信を付ける

る」を、今回のセミナーで主に行つていくということでした。

さらに「ぐちゃぐちゃ言う前に、

素直にやつてください。誰でもでき

るということ、自信を持つてください。何が本物か自分で確かめて、自分

で決めたことは、その結果は自分

のものとして、責任を取るというよ

うな気持ちで、まっすぐに進んでください」との話がありました。

続いて今回のセミナー資料の説明がありました。そのセミナー資料の反転の実習の五項目で、特に四番目の「マイナスの思いをプラスに変え

ためにやっているんです」と話されました。

続いて、一番目のメガネの実習、果物の実習、そして、『意識の流れ』の本の実習が行われ、さらに、三番目の体の調子が悪い人が出ての実習も行われました。

四番目の実習は、会場のみんなで行いました。「人はプラスとマイナスの思いを二十四時間出しているんです。プラスとは一言で言えば、喜びとか温もりとか優しさとか、それ以外はすべてマイナス。今出したほやほやの思いが一番いいんですが、それをプラスに変えるんです」と話されて、「田池留吉の磁場」を思つて出てくるマイナスの思いを、各自で反転する実習を行いました。そして、最後に「ふるさと」の歌で、初日の勉強が終わりました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の時間で、各自がそれぞれの場所で過ごされました。今回も水の実験をされた人も多かつたようです。

午後からは、初日と同じく反転の実習がありました。最初に田池先生の話があり、「一日の生活で、できるだけ習慣になるように励行し、その上で肉の生活をやつてください」から始まりました。

実習では、水、メガネ、果物、そして、体の調子が悪い方の実習があり、それぞれ希望者の方が数名ずつ出て行されました。その後、マイナスの思いを反転する瞑想や、指差しによる反転の実習、そして、大勢の希望者が前に出て数名ずつ順番に反転の実習等が行われました。二日目の最後は、「ふるさと」の合唱で終了しました。

しました。

三日目は、「今回のテーマは反転です。ずっと反転です。頭を使わずに実行することです。反転の奥は深いです。実行せずに人に聞いて回つてもわかりません。学びについて教えられる人はおりません」との田池先生の話で始まり、続いて全員で「田池留吉の世界」に心を向けて瞑想を、

そして、「お母さんと呼んだ人」に心を向けて瞑想を行いました。さらに、田池先生の厳しい話を聞いて出てきた思い、セミナーに来て出したマイナスの思いを反転する実習を行いました。あとは、水、メガネ、入れ歯、体の悪い人の実習があり、最後に田池先生の異語を聞きながら自分の思いを反転して、全日程が終了しました。

■第十二回 UTA会の開催状況

二〇一二年七月二十九日から三十一日まで、琵琶湖グランドホテルで第十二回 UTA会が開催され、夏休みということもあり、七百五十名を越える方の参加がありました。

今回は、皆さんもご存じの通り、このUTA会にとつて大きな転換期ということを感じるセミナーとなりました。それは田池先生がセミナーの数日前に倒れられ、セミナーには元気な姿で来ていただいたのですが、そのことで、今回から塩川香世さんが、田池先生がやつてくださつていたことを、してくださいるようになります。

初日は、久保幹事長の挨拶に続き、田池先生の今までの締めくくりとし

て、次のような話がありました。

「昭和四十九年を振り返つてみる

と、なぜ人間は争うのか、腹を立てたり人を責めたり裁いたり、そして、その挙げ句には病気になつて病人がどんどん増えていくんだろうかと、また、なぜ私の人生に不思議な事が次から次へと起つてくるのかと、この二つのことが私の課題でした。

私は短気でしたが、短気ということを感じるセミナーとなりました。それは田池先生がセミナーの数日前に倒れられ、セミナーにはいませんでした。これは何か自分に気付かせる性格だと思いました。

私は自分が歩んできた道が、自分では一生懸命に生きたし、誠実に、真面目に生きてきたつもりですが、結果として、それが本当に真面目で真っ直ぐで、正しい道だつたのかという疑問を持ちました。結果を言います

と間違つていたということです。だ

から、今の生き方は全く反対の生き方をしています。

そのあとは、母親の反省を眞面目に真剣に継続するようになつたんです。そうすると自然にいろいろの疑問が解けてきたんです。これは人間の頭、学問、あるいは知識ではわからない内容でした。だから皆さんにいつも私が言うことは『心を見てください』ということです。心を見ないう人は……』という話がありました。

続いて、塩川さんからセミナー資料についての説明があり、そのあと、数名の希望の方々が前に出て水を使った実験がありました。その中で、「この水の実験を侮らないでください。自分で体験してください」との話がありました。

そして、抽選による反転の体験発表と波動の勉強がありました。続い

て、田池先生の指差しによる全員での反転瞑想、さらに田池留吉に心を向ける瞑想があり、そのときに幸せだと思つた方々が前に出て、瞑想の勉強がありました。最後は、「ふるさと」の歌で一日目が終わりました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の時間でした。

午後からは、田池先生の話があり、今朝の夢の中で、「今回から塩川香世さんがなさるということで、これからは田池留吉の磁場ではなく、塩川香世さんの磁場に心を向ければいいのですか」という質問がありました。と言われ、それは間違いです。誰がなさろうと田池留吉の磁場、これは普遍ですか」という話がありました。

そのあと、水を反転できる人ということで、希望者が出て反転実験が

ありました。そして、初日に続き、抽選による反転の体験発表と波動の勉強、また、メガネやミカンの反転実験がありました。また、話を聞いていて気分が悪くなつた方ということで、数名の方が出て反転の勉強がありました。

休憩に続いて、抽選で母の温もりを自分自身に伝えている方として、数名の方が出ての勉強がありました。そのあと、丹田呼吸の説明に続き、お母さんを思う瞑想を全員で行いました。そして、全員で田池先生の指差しで出てきた思いを反転する勉強がありました。最後は、「ふるさと」の歌で二日目が終わりました。

三日目は、まず田池先生から「昨日も言いましたが、昨日出ていただけ二名の方につくつていただいた

輪を『UTAの輪』と仮に言わせていただきます。その輪は皆様だけの輪ではないんです。全部の意識を私は一つの輪としてこれから進めていきます。ご参加いただくかどうかは、皆様が決めることです。決めただけではいけません。それなりの用意をしなければ輪の中に入つてこれません。と言つても難しことではないんです。私が言つている田池留吉の磁場に心を向けるということを実践することです」 という話があり、それから田池留吉の磁場を思う瞑想を全員で数回行いました。そして、気分が悪くなつた方を通して反転の勉強があり、その後、田池留吉の磁場に向ける瞑想や、塩川香世さんを通して波動の勉強が数回ありました。最後は「ふるさと」の歌で、三日間のセミナーが終わりました。

■第十三回UTA会の開催状況

二〇一二年九月二十三日から二十五日まで、琵琶湖グランドホテルで第十三回UTA会が開催され、七百十名を越える方の参加がありました。

今回は、セミナー資料と一緒に田池先生が書かれた草書の「愛」の字のコピーと白紙の二枚が配られました。使い方は後ほど説明があります。

初日は、久保幹事長の挨拶に続き、田池先生の話がありました。「この学びは宗教ではありません。やることは正しい瞑想、この一点に尽きます。これからは塩川香世さんとUTAの輪をつくって、みんなと共に愛の旅、人生の目的に向かって学びを進

めていくということです。希望しただけでは、その輪に入れないようですが、これからは本気でやる人だけで輪をつくってやりましょうということです。その輪に参加するかしないかは、すべて自己選択・自己責任です。

今回から瞑想の時間をたくさん取っていきます。私がお伝えしていることは頭ではわかりません。最初はこうかな、ああかなと考へるんですが、最後は瞑想でしかわかりません。瞑想でしかわかりませんと言つても、実は誰でもわかるんです。

私という人間は、目に見える私と目に見えない私がいるわけです。目に見えない私は永遠に存在します。

目に見える私はやがて皆さん目のから、視覚から消えていくわけです。皆様もご同様です」との話のあと、

全員に配られた草書の「愛」と白紙

の使い方の説明がありました。それは白紙には自分で何か好きな文字を書き、草書の「愛」の字と自分が書いた文字とをOリングパワーで確認するということでした。そして、実際にその実践がありました。

そのあとは、前回のセミナーで悩みがある人は、便せん一枚に書いて郵送してくださいということだったのですが、今回、その中から十名の方が選ばれて前に出ました。そして、その方が悩みを簡潔に話したあと、それに対して塩川さんを通してメッセージが語られました。それが終わって、全員で田池留吉の磁場に心を向ける瞑想を何度か行いました。

今回の瞑想で出てきた闇を反転できたという人は前に出てくださいということで五名の方が前に出て、塩川さんを通してメッセージがありま

した。そのあと田池先生の指差しで反応した人が数名指名され、前に出て同じく塩川さんのメッセージがありました。続いて体の調子が悪い人で数名の方が、さらに、精神的に不安定な人で二名の方が出てそれぞれメッセージがあり、一日目が終わりました。

二日目は、午前中は瞑想・親睦の時間でした。

午後からは、海外の五名の方がスカイプを通してセミナーに参加し、一緒に瞑想を行うという初めての試みがありました。その後、一日目の最後に出られた方が、再度前に出て勉強がありました。

休憩のあと、全体で瞑想を行いました。そして、田池先生に指名された人が数名出て、塩川さんを通しての

メッセージがありました。そして、今度は希望者が数名出て同じことがありました。さらに、数名の人が指名されて前に出て、メッセージがありました。

休憩後、塩川香世さんからセミナー資料の説明があり、「あと二年、正しい瞑想が行えるようになつてください。皆さんとできるだけ瞑想する時間を長く持ちたい」というのが私の正直な思いです。また学びは絶対評価で続けてください」という話のあと、田池留吉からのメッセージがありました。続いて田池先生の話があり、全員で瞑想を行いました。そして、三列目までで前に出たい人で大勢の人が出て塩川さんを通してのワンポイントがあり、二日目が終わりました。

三日目は、田池先生から本の読み

方の説明がありました。それは、本を読んで、気になつたところに筋を入れて、そのときの感想を日付を入れて余白に書いておく、できたらその箇所で軽く目を閉じてその言葉のほうに意識を向けて瞑想をする。それは、これから勉強にも役立つてくると思いますという話がありました。そして、田池留吉の磁場に向けての瞑想を、全員で行いました。

休憩のあと、Oさんが指名されて塩川さんを通してのメッセージがありました。続いて、ゼロ歳の瞑想を行いました。そして、田池先生の指名で一名の方が出て、メッセージがありました。最後に田池留吉の磁場に思いを向けて、マイナスの思いが出てきたらプラスに変える「反転」の瞑想を全員で行い、三日間のセミナーが終わりました。

会員からのお便り

このコーナーは、皆様とUTA会を繋ぐページです。皆様の体験談や手記、ご意見などを、お気軽に寄せください！

■体験談

▼読書ボランティアをして思ったこと、それを反転して感じたこと

大阪府 高橋 静

紙芝居や絵本をアルバートを思つて読むと、心が温かくなつて、聞いてくれる子供たちに、ありがとうと、言えることも嬉しかつたです。子供たちの温もり、お母さんを求める寂しい心が伝わつてきて、その中で、癒されたい、わたしを受け入れろ、と責める思いを教えてもらいました。

わたしは最近まで、娘が卒業した小学校で、読書ボランティアをしていました。始めたのは、朗読が好きな母との思い出がきっかけですが、

苦しい自分を救いたい、お母さんの温もりに出会いたい、心を見るためだと言い聞かせ、参加していましました。（自分に言い聞かせること自体が暗かつたです。ごめんなさい）

わたしは最近まで、娘が卒業した小学校で、読書ボランティアをしていました。始めたのは、朗読が好きな母との思い出がきっかけですが、苦しい自分を救いたい、お母さんの温もりに出会いたい、心を見るためだと言い聞かせ、参加していましました。（自分に言い聞かせること自体が暗かつたです。ごめんなさい）

紙芝居や絵本をアルバートを思つて読むと、心が温かくなつて、聞いてくれる子供たちに、ありがとうと、言えることも嬉しかつたです。子供たちの温もり、お母さんを求める寂しい心が伝わつてきて、その中で、癒されたい、わたしを受け入れろ、と責める思いを教えてもらいました。

口ポペイは、団子虫の言葉に変わつたんだ」と言つたのを、娘から聞いた時、あれは異語だつたのに、心の言葉で、男の子の自分からのメッセージだつたのに、わたしはそれを男の子に伝えることが出来なかつた、駄目だなあと落ち込みました。

田池留吉の磁場を思つて、反転すると、心を見る現場をもらえて良かった、お母さん、ありがとう。産んでくれてありがとう。そう感じました。

アピロポペイになつちやうん

だ」と答え、娘が、それを笑うと「アピロポペイを馬鹿にするな、これを言うと、心が落ち着くんだから」と真剣な顔で、ノートに書き綴つたそ

▼UTA会だより、第7号、あります。

鹿児島県 吉鶴みち子

UTA会だより第7号。本当に凄い凄い、ありがとうございます。うの思いで読ませてもらいました。

特に久保幹事長さん、鈴木和子さんの体験談を読ませてもらいましたが、いつたい私達夫婦は何をしていたのだろうと、反省しきりです。

8歳になる姑は、7年ほど前から、被害妄想になり、私達夫婦は「何でこんな病気になつたんだ」と、それは凄まじいマイナスの情報を流し続けてきました。マイナスの情報を探し続けてきたから、姑の病は

ドンドン悪くなつたのだと、今はそう確信しています。腰は曲がり、自分の足で歩けなくなり、車椅子の生活になりました。

夫は2009年10月に大手術をし、重たい物を持つことができなくななり、私も1年3ヶ月前に癲癇の病気になり、家でお世話することができなくなりました。今は特別養護老人ホームでお世話してもらっています。

2日に1度、お茶とお菓子持参で面会に行き、それをさせてもらうことが親孝行と思つていました。

でも違いました。間違つていました。肉肉肉の思いでした。反転の実践をさせてもらうための現象でした。姑の頭にも、曲がった腰にも、歩けなくなつた足にも、反転の「は」の字もしていませんでした。

面会に行く度に、衰えていく姑の

姿を見ながら、「凄まじいマイナスの情報を流し続けてきてごめんね」の思いは向けても、全然反転の実践をしてきていませんでした。

今からでもまだ反転の実践をさせてもらえると思うと、嬉しくなつきました。姑に対して、反転の実践をさせてもらえる、そう思える自分が嬉しくなつてきます。姑だけでなく、自分自身の肉体細胞にも、冷たかつたことの確認もさせてもらっています。

今から、一からやり直しです。他の方々の体験談を読ませてもらひながら、他力の反省も進んでいないことの確認もさせてもらっています。自分の間違いを素直に認められることは、こんなにも嬉しいことだつたのですね。

いつも、いたれりつくせり、あり

がどうござります。とつても嬉しかつたのでメールさせていただきました。

その後、体験談を頂きましたので、それも掲載いたします。

体験談を読ませていただいたその夜から、早速、遠隔磁場・反転の実践と同時に、面会に行く度に、「お母さん、田池先生を覚えているよね。田池先生を思い出しながら、一緒に、頭、腰、膝に『反転』と、言葉に出してみようか」と、反転の実践をさせてもらっています。

姑は「反転」と、素直に口に出してくれています。以前は面会に行く度に衰えを感じていましたが、反転の実践を始め出してから、日に日に回復が見られました。

身体は曲がって、いつもテーブル

に顔を着けていたのが、腰もしつかりと伸びています。ほとんど動かなくなつた右手で、カップを持つてお茶も飲めるようになりました。

最近は、レクレーション、生け花、詩吟にも進んで参加するようになつています。一番びっくりしたのが、自分で車椅子を動かしているというこ

とです。そして、水分も良く摂り、快眠、快便（4日に1度の排便でした）とのこと、磁場・反転のエネルギーの凄さを感じさせてもらつています。

これからも、姑・私達夫婦と一緒に、磁場・反転の実践をしていきたいと思っています。

私は、第12回UTA会セミナーがスタートラインに立たせてもらつたと思っています。

滋賀県 野田ショウジ
▼体験した事

1 不治の病が治る

痛風の病にかかつてから26年目の昨年5月にセミナーがあり同部屋のある方と約束を一つしました。痛風は薬を飲まなくとも必ず治るからこの学びを真剣にやつていこうということでした。講話の中で先生はどんな病気でも心を見て、いけば治るというお話をありました。なぜかわかりませんが、不思議にも先生の言う通りにしていけば必ず治るという確信

してください」と、言われたことを、素直に実践していきたいと思つています。

ありがとうございました。

というか自信がありました。それまではいろんな痛風対策の本を読んではなんとか肉の努力で治そうと思つて、運動をもつとするとか、食事療法を試してみるとかしましたが、効果はありませんでした。今振り返つてみて初めて痛風の原因が心にあつたということに納得です。どんな食事をしてもいいし、時として疲労が重なることがあつても痛風の発作は起こりませんでした。今はまだ全治という状態ではありません。数ヶ月か半年に一度ぐらい痛風の前兆が現れ、骨が腫れる部分がチクチクします。その時はそこに反転の思いを向けると治まります。意識して体に対してごめんなさい、ありがとうの思いを向け始めたのが12月頃からです。母の瞑想を毎日するようにしました。以前は（二十年もの間）瞑想をしても

ほとんど何も感じるものがありませんでした。今、ようやく少し感じ始めてたところです。

2 純水について

*以前は朝起きると顔が油っこくなつており気になつていましたが、純水を毎日少なくとも2L飲むようになつて数日後から、おでこや顔全体

から脂っこさが消えました。純水を飲むことで体の不純物の消化が進むようになつたからではないかと思ひます。でも私の場合毎日飲み続ける必要があります。2L以下だと翌日の朝、前よりは少ないですがまた油っこさがあります。

*純水を飲み始めたのは雄琴温泉駅に近い仰木の里に引っ越してきた時で2ヶ月前です。

自然が豊かな京都のベットタウン

で散歩と運動ができる場所がたくさんありますので散歩が好きになりました。天気がよければ午前、午後と運動をしますが体が疲れませんし、足などに筋肉痛等もありません。これも純水パワーだと思います。純水を飲む時、水よりがとうという思いが出ます。

3 故郷を思う

生まれて9ヶ月という短い間住んだソウルの町。戦火により壊滅し、その後高度成長しました。肉の記憶は何もありません。今年3月のセミナーの最後に、締めくくりとして皆で故郷の歌を歌い始めました。今まで故郷の歌を聞きながら感動したことは、ほとんどなかつたように思います。以前も何度か田池先生に両手を上げてもらって歌つたことがありましたが、それほど感じることがなかつたので

よほど鈍感だったのだと思います。そ

こで肉で意識して口から故郷よ、ソウルよ、ありがとうございますと試しに言つて

みました。効果テキメンでした。心の底から故郷よ、ソウルよありがとうございますという思いが溢れ出ました。涙が止まりませんでした。本当に驚きました。

あれから数ヶ月経ちました。故郷を思うと、どこまでも優しく育んでくれた

ソウルの波動は母の愛と同じく感じます。その無限に広がる故郷の愛に全く反する己偉い思いばかりを出してきた自分が、見え始めてきました。

気が発覚しました。

病名 球脊髄性筋萎縮症(SBMA)

症状は手や足の筋力が徐々に衰え

て、歩くことが困難になり、約10年後には車いすの生活になるという特定疾患に指定された難病です。

現在のところ決定的な治療法はなく、厚生労働省の負担で研究されています。

原因はたんぱく質遺伝子の異常により神経細胞が死滅すると考えられています。

以前から体がおかしい、力が入らない、走れない、1キロ以上続けて歩くことができない、といった自覚症状はありました。会社で仕事をして

いても荷物を持つのに不自由していました。去年医者に診てもらつていて

心の学びを始めて5月で1年になります。今年(2012年)2月に病

われました。単なる運動不足かと思つていましたが、体の不具合は続いていました。

今年2月になつて従兄弟が筋肉の病気だと聞いていたので本人にその

症状を聞いてみようと家を訪問しました。彼は64歳、杖や手すりがないと歩けない、階段は2、3段がやつと、障がい者2級の手帳を持っています。

病名、症状を聞いてビックリしました。自覚症状も私とピッタリ当てはまります。若い頃から顔がピクピクする、手が震える、足がつる、何もないところで転んだり、変な咳が出たり。

遺伝子DNAの異常で母方の血筋に遺伝する。従兄弟は私の母の姉の子です。まさしくすべて当てはまります。

とてもショックです。私が難病患

滋賀県 佐藤光浩

▼体験談 1

心の学びを始めて5月で1年になります。今年(2012年)2月に病

者、10年後に車いすの生活。あたふ

たとしました。

どうしよう、仕事ができない。お金がない。体の自由が利かない。自由に身動きできなくなる。

とりあえず病院を受診しようと赤十字病院に予約を入れました。神経内科は混んでいて4月5日に診てもらうことになりました。

3月1日 酔い心が表れ、医者にかかる前に生命保険の契約をし、仕事ができなくなつた時に受け取ろうと考え、保険屋さんと商談しました。しかし保険には審査があります。健康診断の結果が悪い私は審査に落ちるかもしれない。どうしよう。

ここでやつと気がつきました。何の為に心の学びをしているのか。馬鹿なことを考えていました。『田池留吉に心を合わせていればすべて整う』

そのことをまるつきり忘れてしまつていました。私はこの人生を計画して母にお願いして生まれてきた。この肉体も計画のひとつ。すべては愛に帰る為に自らが選んだこと。

3月12日 保険屋さんに電話し契約を断りました。真剣に学びをしていこうと心に決めました。

3月18日～20日のセミナーは、「田池留吉の磁場 水の実験 肉体細胞 ありがとう ごめんなさい ありがとう 反転 思う 感じる 信じる」というとても分かりやすい内容でした。ありがとうございます。健

康診断の結果が悪い私は審査に落ちるかもしれない。どうしよう。

セミナー会場でAさんに病気のことを話しました。その方は「一番誰にその病気のことを言いたかつたんですか」と尋ねられました。私は「母かな、父かな、分かりません」と言い

ました。数日してからその答えが返つてきました。一番言いたかったのは自分自身にだつたのです。

4月5日 赤十字病院神経内科受診 医師に「従兄弟が球脊髄性筋萎縮症です」と言つたら簡単な診察で貴方もその病気ですと言われました。

会社はどうしよう。以前から筋力がないことは上司も同僚も知っています。荷物を扱う仕事です。去年から

体が何かおかしい。力が出ない。重い荷物が持てない等は伝えています。上司にハッキリと報告しました。難病指定された特定疾患患者だと。インターネットで病気の詳しい説明をプリントし渡しました。社長にも報告して下さいと言いました。今の職場では長く勤められないことも伝えました。

4月12日 常務に「次のを入れ

てもらつてもいいですよ」と言つた
ら「まあ、どうしても仕事ができん
というとここまで我慢せいや」と言わ
れ、このまましばらく勤務するのか
と思つていました。

4月18日 会社が5月に求人を入
れると言つてきました。私は退職届も
出していません。常務の話と違うと
所長に言いました。社長、常務、所
長の間でうまく話が伝わっていない
のを感じました。いろんな方がすぐ
には辞めるなど言つてくれます。私
はこの時に目に見えない流れが動い
ていると実感しました。

5月になり面接の人が数名会社を
訪れました。次の仕事が見つかってい
るわけでないので失業したらすぐに
失業保険がもらえるようにしてもら
いたいなあ。そう思い所長に聞きました。
「社長は辞表も受け取つていな

いのになぜ求人を入れたのか、解雇
か自己都合かそれとも人員を増やす
氣でいるのか」その所も確認したかっ
たのです。

5月20日 新人が入社してきまし
た。私の仕事を教えます。引継ぎです。

会社は私が辞める前提で事が進んで
います。常務になぜ求人を入れたの
か聞いてみましたが、「お前が辞める
と言うたから求人を入れた。会社が
求人を入れるということ、そういう
ことや。わしはお前に、もうちょつ
と我慢せい言うたやろ」と言われま
した。常務の話にいくつかの矛盾を
感じ、所長にそのままを伝えました。

家族は会社を辞めることをとても
心配しています。両親に6月末で退
職すると言いました。

5月26日27日、29日初めて前日か
らセミナーに参加しました。この学び
を真剣に、命がけでやつていこうと決
心しています。いい加減な気持ちで
参加するのは肉体細胞に失礼だと思
います。何よりセミナーに参加して
いるだけで嬉しくて仕方ありません。
セミナー2日目、喜びの現象ふる
さとの後、病気のことを探つている
Bさんが私に声をかけて下さいまし
た。「体は大丈夫なんか」私は「大丈夫、
私の中に田池留吉がちゃんとありますから」そう言つたとたん涙が出てき
ました。そして2人でハグしました。
ありがとうございます。嬉しい、ありがとうございます。
3日目、朝から父と電話で大喧嘩
しました。闇の爆発です。私に何の相
談もなく勝手に会社に訪問しようと
したのです。セミナーが始まつてす
ぐ、田池先生は「3日間で出たマイナ
スの思いを反転してください」と瞑想
の時間を頂きました。とても嬉しかつ

たです。涙と、えづくような声が出ました。この3日間で鈍感さが少し緩んだようです。セミナーは凄い場所、空間、磁場であると実感しました。

5月30日 会社に出勤すると昨日2人突発で休みだつたと分かりました。事前に届けを出していた私を含め3人のいない現場はてんてこ舞い。

かなり厳しかったようです。

5月31日 常務が退職届けを出し

てくれと言つてきました。私は解雇や自己都合のややこしい話はしないでおこうと思いました。自然の流れに任せておこうと。

6月1日 退職願いを所長に提出。

「解雇か自己都合の件は社長におまかせします」と言い添えました。

まだまだマイナスのブラック工ネルギーを撒き散らしている私です。病

気になつたお陰でたくさんのことを行なって頂きました。そして毎日が楽しい、嬉しい、ありがとうを実感できます。ありがとうございます。

これからも真剣に学びをさせて頂きます。ありがとうございました。

▼磁場、反転の体験

大阪府 山中 覚

私の磁場、反転の事実を書きます。今振り返つても凄いことだと思つてあります。

握るために翌日の十七日に再度胃カメラをして、手術の打合せの診察を五月七日にして、五月十八日に手術をすることになりました。

ところが、五月七日に外科の診察を受けに行つてみると、四月十七日断で胃に異常があり、四月二日に胃カメラをしました。そして四月九日に胃カメラの結果の内科診察で、胃の内側の肉厚の部分に腫瘍があり、2センチ程の大きさで白く盛り上がる

写真を見て、摘出手術を勧められました。私は自分ひとりでは決断できなく、四月十六日に妻と同席の内科診察で手術を承諾して、外科診察を受けました。腫瘍が良性か悪性かはつきりしないが、手術をやりながら良性であれば軽易な穴を開けての手術、悪性であれば少し大きな手術になると説明を受け、より腫瘍の状態を把握するために翌日の十七日に再度胃

カメラをして、手術の打合せの診察を五月七日にして、五月十八日に手術をすることになりました。

度胃カメラをして様子を見ましょう」と言いました。妻は腫瘍が無くなることがあるのですかと問いましたが、外科医は「執行猶予と言つことで」とおっしゃいました。あっけにとられて嬉しくなつて妻と私は病院を出ました。手術をしなくてもいい、身體にメスを入れなくともいい、びっくりです。わずか二週間ほどの間で胃の状態が変化しました。反転の事実です。反転した水を毎日がぶがぶ飲み、磁場と反転の瞑想を毎朝続けた結果です。反転した水を飲むことは、ホームページに出てからやつていましたが、量を増やしました。瞑想で胃に思いを向けると、苦しい、己一番の思いが出てきて、反転してお母さんありがとうを続けました。私は手術が軽く済んでセミナーに行けたらいのにと思って反転をしていました

が、まさか手術をしなくても良くなつたことが、今でも不思議でどうなつているのかと思います。頑張つてやつたからとか一生懸命にやつたからとか実感がありません。ただ田池先生が言われたことを素直にやろうと思いました。毎日瞑想する中で己一番と周りを見下す自分、働け、働けと金、金の自分を確認するばかりです。

手術をすることになつてからいろんな思いが出ました。仕事をどうしようとと思いました。私は社員のほとんどが身内という工場を営んでいます。私が休めば工場は止まります。会社の内外に影響が出ます。自分がやらねば誰がする、働け働けの毎日です。私はセミナー以外に休みはほとんどありません。私は自分が出してきたマイナスの思いが身体に表れたのだと思ひます。

私は今回の体験で反転は本当に凄いことだということと、自分はどこまでも己一番なんだということを実感しました。四月九日に田池先生に自分が手術をすることを報告しました。田池先生はあんたが決めることとおっしゃり、私は妻と相談して決めました。そして五月七日に手術をしなくてもいいことになつて、セミナーに行けると思つて田池先生に手術をしなくてもいいことを電話しました。セミナー初日に田池先生に報告すると、みんなに言つてあげてねと言わされました。田池先生にすぐに言えなかつたことに思いを向けると「俺が偉いんじや、俺が偉かつたから治つたんじや」と返つてきました。どこまでも己一番の自分であることと、喜びが少なすぎる自分であり、素直でない自分であることが

見えてきました。もつと本当のこと

いこそ肉の思いでした。

に素直になつていこうと思いました。

そこから他を比較していきました。

磁場と反転の瞑想、そして反転した

自分は愛に包まれて喜びだつたんだ

水を飲んで死ぬまで元気に心を見て

と思うようになりました。お母さん

いきたいと思います。

の温もりも、自分が暖かいから温も

りととのと同じです。

汗をかきながら、歩いている私

中に喜んでいる自分がありました。何

故と思つていてこのことに気がつき

ました。

肉の思いというのは、肉を持つて

いるからあるのだと思つていました。

その思いを自己供養するのだと思つ

ていました。

それが錯覚でした。みんな愛の中に包まれていました。それを自分が偉いから、暖かい、温もり、喜びだと思うようになつていき、私があるから、温もりがあると、包まれて喜び温もりを忘れていました。その思

う。I

神奈川県 安達イサ

数年前のHPにアマテラスのメッセージが載つた時、古の奈良の都が

飛鳥、奈良への思い。

最初の出会いは小学2年の国語の時間でした。「乗合自動車(バスのこと。戦時中だつたので)は斑鳩の里を走る」という文中で斑鳩の里と発せられた瞬間、強烈な慟哭にも似た懐かしさが心を突き抜けたのでした。

一面の菜の花畑の真ん中を一本の道が真っ直ぐに描かれ、小さな標識の前にバスが止まつていた。クレヨンで描かれたこの風景が確りと目に残つています。

真っ直ぐに延びたあの一本の道は何処に繋がつてゐるのか、ふと思つた。

もしや近つ飛鳥の方向なのか?

心に迫つてきた。アマテラスイコール大和朝廷が私の心中でした。

私にはあの時代が心の中に渦巻いている感覚があります。

最初の出会いは小学2年の国語の時間でした。「乗合自動車(バスのこと。戦時中だつたので)は斑鳩の里を走る」という文中で斑鳩の里と発せられた瞬間、強烈な慟哭にも似た懐かしさが心を突き抜けたのでした。

最初の出会いは小学2年の国語の時間でした。「乗合自動車(バスのこと。戦時中だつたので)は斑鳩の里を走る」という文中で斑鳩の里と発せられた瞬間、強烈な慟哭にも似た懐かしさが心を突き抜けたのでした。

しようか。

小さな体をぶつ飛ばさんばかりの

強烈な衝撃は、斑鳩法隆寺の住人の

1400年の時を越えた今世へのこ

の時への思いだつたのでしょうか…。

大和朝廷を中心とした飛鳥奈良時

代の歴史、人物など鮮明に浮かんで

きます。血ぬられた壮絶な貴族の闘

いも、蘇我馬子一族4代も、弓削道

鏡と言う名前も…。遣隋使、遣唐使

と聞けば心が奮え、遣隋使の小野妹

子は女と紛える名前が気になり、教

科書のあのページにあつたと名前だ

けが焼き付いている。また、「天の原…」

と詠つた阿倍仲麻呂の思い、長安の都

から遙か三笠の山の月を忍ぶ望郷の

念が切ない程私の心に迫ると同時に、

長安の都へも一入の思いがありした。

山の辺の道への熱き思いがずっと

心にあり、一度はと願つてきました。

国史は5年から。

しかし、国語の教科書にも弁慶と

牛若丸、木曾義仲、山中鹿之助、楠

木正成など歴史物語が多くあり、私

はその中に引き込まれて行つた。唱

歌では義経の鶴越を、馬も四足鹿も

四足…と声高らかに歌い、青葉茂れ

る…の桜井の別れには胸が詰まり歌

えなかつた。正成の千早城の藁人形

仕立てで孤軍奮闘する合戦…、懐か

しの千早赤坂村です。

正義と忠誠心に泣く私は、正義と
か忠義を美德と闘つてきた私自身で
もあつたように思います。

今、その美德に命を懸けた勇者達

の呻き、正義と忠義に散つた暁が地

獄の奥底とは何故だと、解せぬ思

が迫つてくる、悲痛な叫びとなつて

迫り来る様です。

鎮魂…、眞実を知つて初めて出来
る鎮魂、今世の出会いに感謝です。

絶対とは。

私の中で地を搖るがさんばかりの
激震はもう一つ。小学3年の学校帰

り、遊びに行く約束で友達が「絶対
だよ」と言つた瞬間「絶対なんて軽々

しく言うな! 絶対なんて存在しな

い。もしあるとすれば神だ!」と、ま

るで地の底を割つて突き上がるよう

な衝撃に体は震え、血の気が引いた。

地鳴りのよう轟いたこの思いこ

そ、絶対なる眞実を求めて、求め
てもどんなにしても得られなかつた
過去世の悲痛な叫び、怨念の様に思
えるのです。

沢山の自分を感じて。

こんな自分と幼い頃父と聞いた浪

花節とが不思議と重なります。

今晚は広沢虎造だと喜ぶ父と寝床で一緒に聞き、私はこの中のどれが虎造なのかと聞いた。テレビなら一目瞭然だがラジオの時代の子供は巧みな声色にすっかり騙されたのでした。

声色一つで何役も演じる浪花節のよう、私は心の中に沢山の自分を感じ、この中のどれが本当の自分なのかと、小学4年の時本当の自分探しをした。

本当の自分とはこの自分の言う通りにならない自分だと、寝転がってハイ手を上げて、下ろしてと自分に号令を掛け、数回やつたが号令に反した結果は得られなかつた。もし号令に反して勝手に手が上がつたり下がつたりしていたら、今の私は無かつたかもしれません。

そして、6年生の時にはもう心を

汚してしまつたと嘆き、真っさらな心に戻るには死んで遣り直すしかないと真剣に考えていた。

真っさらな心に戻りたい、原点に戻りたいという願いから命を絶つた、こんな自分もあつたのでしょうか。まさか真っ黒気に汚れ切つたから生まれるとは…。

真実を知らない心は闇に向かつてしか歩めない。

何よりも不気味だつたのは、私の心には巨大な穴がすっぽりと空き、その奥底から何とも言えない虚しさ、儂さが噴き上がる…、それはもう、どう生きて行けばいいのか分からぬ、あの世からの誘いのようでした。

数年前、苦しかつた高校時代を思つた時、ふと、私と同じ年頃の少年！と思いが出た。直感的に16歳と何ヶ月かで華厳の滝に飛び込んだあの少年が浮かんだ。

と同時に浮かんだのがダンテの神曲。60余年昔の出来事が突然蘇つた。何故こんな本を読まなければいけない、渋々仕方なく読んだ記憶を。この本を手に取らせ最後まで読ませたのは彼だつたのかと、忘れていた心の問えがストンと落ちた。

それは決して本当の自分ではなく悪魔にしか思えなかつた。ああ、悪魔で良かった、もし天使だつたら過去の二の舞は必定。

我は何々と心酔する物は現れず、汚く苦しい裏面だけが浮き彫りの、こゝの心こそ愛だつた。この心の中にこそ本当の自分がありました。

心を見る。

私は心を見ると言うより絶えず心から上がる思いを感じ、心つて一体何だろう、心はどうなつていてると不思議だつた。

洋裁学校の頃、仕立て上がりの服で出掛けた際、気になつて何度もワインドーを覗く自分に、何でこうも人の目を気にするのかと思つた。人の目を通して自分を見ようとしている自分に疑問を感じた。

また、全く気力萎え、やる気が出なかつた時、ふと気とは何かと思つた。力、エネルギー?と思つた時、驚きと意外な感覚があつた。そしてこのやる気というこのエネルギーは何処から来るのか思つた。

体裁屋の私は飛び乗ろうとした電車に寸前で閉められて非常に恥しかつた。そんな時、外人はドアを叩いて怒るとか、そこはアマテラスの国日本、そんなハシタナイことなど出来ない。密かに自分の無様を恥じ入るのみ…。

一生懸命走つた自分を労わるどころか、無様と一刀両断の冷酷さ。恥じる心を美德としてきた私、思いを封じ込め、切り捨てるエネルギーでした。

大の親友と映画通いの頃、郊外から来る彼女は、何時も約束の時間に遅れた。何時まで待つても来ない彼

女に怒りん坊の私は、どうせ遅れるならもつと遅れると焚き付ける思いが溢れ出た。思いつ切り怒れる喜びに湧く私の心でした。

こんな私がもう怒らなくともいいと寛大な気分になつた直ぐ後から、折角怒れるのに怒らないのは勿体ないと煽る思いに何とも言えない気持ち悪さが走つた。心がムズムズと、じつとしていられない違和感だつた。

焚き付け、煽つて心を昂らせ喜びを創り出す肉、その誘いを払えば心はザワザワ騒ぎ、肉には苦しく心地悪いものだつた。

サタンの入れ智恵は心強く囁きは芳しく、愚かな肉はずつと酔い痴れ心を売り渡してきました。

仏の顔も三度が許容範囲、それを越せば怒りは爆発、制裁は当然の私でした。

仮説を立て実験。

仮説を立て実証なさる先生のお話で、やはり眞実の世界から降りてこられた方は違う、全くの無垢の心だからなんだと思つた。

心に満杯の苦しみを抱え切羽詰まつた状態の私には、この苦しい心を何とかと思うだけだった。何故苦しいのかと分析せずにいられなかつた。

「人は生かされている」と聞けば、人の初めと終わり、生と死は自分の思いで如何ともし難い、ということとは今も自分の思い、力では無いと

いうことか。

「人のこの世の姿は仮の姿、永遠の旅人」と何かの本で読めば、死んでは生まれ変わる繰り返しだから永遠に仮の姿ということか。

しかし、何故、何のために永遠に

仮の姿を繰り返すのか、今が仮の姿なら本当の姿はどうどんな姿なのか、本当の姿はいつ現わすのか…。

「神は霞みを食べて生きている」そんな文言に触れれば、性を持つ人間は欲望なしには生きられない。食欲、性欲、睡魔というこの三大欲望から逃れられない。私はずっとこの三大欲望という思い付きを掴んできた。避けられない欲望の根源はこれだと。

今、こうして書きながらドッキとした。あれは単なる生理現象ではないかと。

静と動の自然のリズム、喜びのリズム、それを私は三大欲望と大発見したかのようないいだつた。生理現象すら欲望と歪め、一緒くたにしてしまつた。

「絶対なんか存在しない」と嘯き、それでも絶対なる存在を否定仕切れない。どれ程自分を落し込め諦めようとも不死鳥の如く蘇る眞実への思い…。

ああ、これこそ脈々と流れる眞実

た。

欲望がある以上苦しみから逃れない、神とは違うのだから仕方がないと。自己分析の先にあつたのは諦めだつた。所詮人間は人間、この枠から逃れることはできないと。どんなに足搔いても超えられない自分に無い物ねだりするおバカさんと自嘲し諦める。

自分を偽善者と嫌い、性善説、性悪説に心が揺れ動いた若かりし日、心を覗けば限りなく悪だけど、それでも根底は善ではないかと心は揺れ動いた。

苦しいからいろいろ摸索してきたことだつた。そして結果は諦めだつ

からの思いでした。眞実に帰りたいと願う心でした。やつと、やつと自分の真意に気付かせていただきました。ありがとうございました。

▼つれづれに思うこと

神奈川県 安達イサ

遊びに来てくれた友と会話、夫婦の話などから在りし日の夫を思つた。

今、夫を思い瞑想をすると、自分の間違いがひしひしと迫り、懺悔の涙が溢れます。

真面目に正直にと願う私に悉く逆らう夫。そこからはみ出す夫が決して許せない私。その私の枠に組み込もうとするエネルギーはどれ程のものだつたか。

泥酔は夫の避難場所だつたのか。

達者な口が全く用をなさない、支配が発揮できないこの泥酔状態が、私は一番悔しかつた。

ほろ酔い加減で軽口を叩き、平気で見え透いた嘘や言い訳をし、外面よく私の言を自分の言葉に摩り替え子供染みた夫を、ずっと見下げてきた。

真っ当に生きなければ、世間から後ろ指を指されてはいけないと頑なまでの私の思いの奥には、得体の知れない恐怖がありました。

総じて夫はお人よし、妻は確り者

と言うか曲者くせもの?のイメージ。これが男は好々爺と慕われ、女は鬼婆と嫌われる所以でしょうか。

女は曲者とか、あくが強いのは、種子が固い殻や渋皮で守られている様、強い子供を産む役目がそうさせ

る本能的なものでしょか。

鬼婆と言われようが子宮という愛の袋の持ち主だから、気儘に種蒔きが仕事の殿方の見え透いた言い訳や嘘も大らかに包み込める優しさに反転、本来のお袋さんを発揮出来たら鬼婆は返上でしょか。

学びの進化は甚だしく、私も私

りに頑張つてきた。

その甲斐あつてか、自分の流す悪臭をこの鼻を通して感じたことがあつた。それは学びの友のご主人の言葉でした。

話しさはグッと遡ります。愛犬二匹が相次いで亡くなり、その友から猫を貰つてくれと熱心なアタックがあつたが、私には潜在的に猫を恐れる思いがあり、二の足を踏んでいた。再

三のすすめでその気になつた時、当

の猫が危険を察知したらしく、寄り着かないとかで暫く経つてやつと捕まえて車の中に閉じ込めたから、避妊をしたら取りに来いとの事だつた。

私は怖々飼うのだから事前に顔を合わせ、仲を取り持つて貰う積りだつたが、彼女の方は餌とか必要品の方が気になつた様で、ネコちゃんとは一面識もなく病院から直接渡された。

家に着き籠を開くと猫は、洗濯ネットを被され、お腹の傷口には大きな絆創膏が貼られ、鋭い目で睨んでいた。怖々ネットに手を掛けチャックを開くと同時に飛び出した猫は、窓枠の上に飛び上がつた。いきなり天井に飛び上がる猫に吃驚仰天、何とか首に付いた紐を引っ張つて下ろし下駄箱の足に括つた。

私は猫への恐怖で一杯だつたが、電車で知らない地に運ばれ、見知ら

ぬ顔を目の当たりにした猫の方こそ災難、どれほど不安で恐怖だつたことか。

私はやつとの思いで括りつけた安心からおしつこの臭いが気になり水を流そうと玄関を開けた途端括りつけた筈の猫が外に飛び出し広い駐車場を越え線路を飛び越え行方知らずになつた。赤い紐だけが確り括りつけられていた。肝心の紐は首に巻かれただけで締められていなかつたのでした。

本當にその通りなのですが…。

夫には叱られ友からは不手際を責められ、つるやホテルのセミナーでご免と謝つたが白い目が返つてきましたが、ただ、ご主人の素直な率直な思

後、何時ものメンバーとランチを楽しんでいた頃、その話を聞かされた。遠慮会釈もない手厳しいものだつたが、ただ、ご主人の素直な率直な思

いだけが心に響き、そうです、その通りですとすんなり心に入つてきました。その時自分から流れる、鼻もぢならない悪臭を感じたのです。

夫はご主人の所に挨拶に、私は彼

女と話をし、離れた所から頭を下げた。言葉を交わした訳ではないが私から流れる波動を鋭くキャッチされたのでしよう、奥さんに漏らした感想は、不確かですが、あんなオツカアジやあー?とかの記憶ですが、要するに高慢ちきな嫌みな女という事でしょう。

厳しさは愛、ご主人に感謝、猫にご免ありがとうございました。

続いて訪れた友達が私の写真を見て、丸で別人だと同じことを言われた。

そう言えど、顔は女の命、だつた頃、崩れ出す顔に必死で抵抗し、黒ぶち眼鏡をかけたり髪形を変えたり悪戦苦闘した。何とか繕えた頃は恐る恐る鏡に向かい、どんなにしても昔のイメージに届かない鏡を見るのもカメラを向けられるも嫌になった。こんな顔は私じゃない、見たくもないとけんもほろろの身勝手さ。年を重ねた顔に邪険だった。心はズキズキ傷んだ。

その昔、従姉妹達を従え初めて化粧をした時、思わず三人で上げた感歎。突然輝いた顔に誇る思いがムクムク膨れ上ると、来世は黒ン坊と飛

び出した思い。やがて崩れる別嬪は本物ではない、そんな喜びは偽物だとばかり喜べない黒い顔を指摘された。

ああ、私はこうした形でメツセーディを貰っていたのでした。

一旦自分が綺麗と思ったその顔だけが自分と、決して年老いた顔は認めたくなかつた。取り憑かれた亡靈を離すのは難しかつた。

改めて心を見るチャンスを頂き、ありがとうございました。

その際、仲間の理事たちは下を向いていたり、マイク担当の人は誰かと話に夢中になり住民にマイクをすぐ渡さないことが何回かあつた。

しかし時間内に終了でき、これで晴れてお役御免だとほつとしていた。総会後、共にやつてきた管理会社の人には「まるで総会屋のようでしたね」と言うと「いろんな人がいますからね」とありきたりの返答でがつ

お腹を両手でぎゅーっと押さえ込み、現象だと感じながらここ3日間のことと思つた。

3日前に総会という新旧理事の交代と一年間の締めくくりが行われた。

その席上で議事進行を遅らせるような愚問ばかりする人が2人いた。

その全てを理事長兼議長である自分が受けて応えなければならなかつた。

その際、仲間の理事たちは下を向いていたり、マイク担当の人は誰かと話に夢中になり住民にマイクをすぐ渡さないことが何回かあつた。

しかし時間内に終了でき、これで晴れてお役御免だとほつとしていた。総会後、共にやつてきた管理会社の人には「まるで総会屋のようでしたね」と言うと「いろんな人がいますからね」とありきたりの返答でがつ

明け方にお腹の激痛で目が覚めた。痛い、苦しい、海老のように丸まり

10月24日

神奈川県 早坂美和子

▼「理事長という仕事を通して教わったこと」

明け方にお腹の激痛で目が覚めた。痛い、苦しい、海老のように丸まり

かりした。

家に帰つてあの時の質疑応答を思い出すにつれてムカついてきた。

夫は仕事だつたが電話でグチつて

しまつた。帰るとケーキとお疲れ様と

言つてくれた。その時はありがとう、

もう終わつたことだからと思おうと

した。

しかし心の中でどうしても思い出してしまい反芻してはムカついていた。

その3日後という判りやすい現象

だつた。手のひらはポカポカと温かいのに腕と足が凍りついたように冷た

い。お母さんを想つた。こんな時は意識に入りやすい。自然と理事長に就任してからのがよみがえつた。

なりたくなかった。しかし順番で回つてくる他の理事4人が全員後期高齢者だつた。

一番若いという引け目で仕方なく

理事長を引き受けた。最初は氣負いもあり、やつてやるぞというエネルギー

でやろうとした。しかし上手くいか

なかつた。

それからはその日その日に浮いて

くる事柄を一つ一つ丁寧にななしていくことをしていた。その後

はスムーズに無理なくこなしていく

ことができた。

その中で自治会や協議会、施工業

者との会合など議論の飛び交うような問題になるといつもエネルギーが満ちる感覚で雄弁に語る自分がいた。

この学びで皆さんはたくさんの過去世があるから多重人格と言われてきたが、私もいくつか自覚しているものがあるので、この学びはいつも過去

世の人達とやつている感覚でいます。その中で理事長になつたのだから、教

祖のパワーがバーンと出て、隙あらば

己を現して我一番、我は神なりとやつていくエネルギーを感じさせてもらいました。しかし反面、教祖様を張つ

ていると気持ちを誰とも共有できなくなつて孤独感や空しさが沸き、おまけに厄介な人が出現してきます。

そこで自分に従わない者は徹底的に排除して息の根を止めるまで攻撃の手を緩めない。軽蔑しまくり責め統

けていたから今回このような体の異変があつたのだと素直に思いました。

己偉いといつもセミナーで言われていた自分でしたが、主婦という立場の自分がそこまで聳え立つ場面もなく自覚がほとんどありませんでした。

しかしその己偉いという苦い過程を今世も再体験させてもらいました。

偶然は一つもない。教祖のエネルギーを身をもつて体験し、その己偉

い破壊のエネルギーで生きていれば末路は哀れになるのは必然と感じました。

ありがとう、とてもありがたくて、うれしくて、そうしたらだんだんとお腹の痛みは薄らいでいきました。

磁場、反転と思いつ冥想しました。あつという間に一時間が過ぎ、愛犬2匹

と散歩に出かけました。しかし先ほ

どの体の急激な異変は完全には戻つていなかつたようで、視野狭窄になつていて、いつもの3分の1程度の視野になつっていました。しかし何の心配も感じませんでした。むしろ清々しくワンコ達と散歩道を歩きました。

この1年間、理事長という自分の意見、意思がはつきり出せる環境をいたいたことに感謝です。毎日自分の心と向き合つてきました。本当の温もりの自分に出会えないのはこ

の他力の壁が邪魔をしているからだと何度も思いました。

まだまだ肉が幅をきかせていますが、心を見るということをしていくと肉も誠実にしかなれないのだということを教わりました。

最近ようやく自分の中で生きる道が見えてきました。

何のために肉を持ったのか？ 目

的は250年後の次元移行であり、そのために母に願い出て産んでいただきました。そして肉で田池先生に出会えた。そこで真実を教わった。自分の中でどこまでやれるかです。過去の自分も納得しながら誠実にやつていいだけです。UTAの真髓を心で知つて行きたいです。



【体験談・感想文等の募集】

UTA会では引き続き、田池留吉の磁場・反転の実験を通した体験談（手記）やUTAブックから出版されている本を読んでの感想文などを募集しています。

頂いた原稿は、コーナーで皆さんに紹介していく予定です。

原稿は、下記UTA会の原稿受付専用メールアドレスまで、Eメール、またはEメールの添付として送っていただければ助かります。もちろん、郵送でも受け付けいたします。たくさんのご応募、お待ちしています。

【送り先】

原稿受付専用メールアドレス：info@utakai.net

郵送での宛先：〒819-1136 福岡県糸島市美咲が丘2-5-1

UTA会 中村康一



メッセージ

UTA会のホームページに掲載しています『私はあなた、あなたは私、一つ』のメッセージ、八八から九三までです。

その実践をセミナーまで、できる限り重ねていつてください。
セミナーはとても貴重な学びの場です。どうぞ、その時間と空間を可能な限り活かしてください。

八八 今、UTA会の皆さんにお伝えするべきメッセージ、どうぞ、田池留吉語つてみてください。

それぞれのこれから転生、二五〇年、三〇〇年に向けて、それぞの心の中で一步を踏み出していただきたい。その貴重な時間と空間であるセミナーの場を活用してください。

反転、反転です。反転のエネルギーをそれぞれの心で感じていただくこと、それに専念してください。

今月のセミナーまで、まずそのことをやってみてください。反転のエネルギーです。

田池留吉の磁場と思い瞑想をして「反転」と思いを発するんです。そして、どうぞ、その反転のエネルギーを、それぞれの心で感じてみてください。

八九 反転の実験は、まず不思議と驚きを感じるところから始まります。

お水にしても、メガネ、入れ歯等々、まずそれらを使って自分で試

してみることから始まります。自分ができなければ意味がありません。まず自分にできて、そして、不思議と驚きを体験することです。

身体の調子の不具合な部分、例えば腰が痛いとか足がどうとか、それも自分でやってみることです。一度ですっと変わることがなくとも、毎日、その部分に反転と思いを向けることによつて、良い方向に、つまり楽な方向にいくこともあります。

あと、自分の身近なことと言えば、本を使って実験をすることだと思います。

表紙を裏返しにした色々な本を袋に入れて、中身が分からないようにして、Oリングテストをしてみてもいいと思います。

自分が良い本だ、これは私の座右の銘思つてはいるという本があれば

一番いいと思います。果たして、その本には、どれだけのパワーがあるか、心に感銘を受けた内容だったかもしれませんのが、それが果たしてそうなのか、それを確かめてみることも、意識の世界、波動の世界というものを、もう一度自分の中で見つめ直す良いきつかけになるかもしれません。

そして、それらの実験を経て、最後は瞑想しかないことを知っていただきたいと思います。

自分の中の反転、そして意識の流れを本当に自分で確信しているか、ぶれないで学んでいきましょう。

九〇 私は、田池留吉の磁場と反転というコーナーで、反逆の心という言葉を掲載させていただきました。

皆さんの中で、田池留吉の世界に

一番いいと思います。果たして、その本には、どれだけのパワーがあるか、心に感銘を受けた内容だったかもしれませんのが、それが果たしてそうなのか、それを確かめてみることも、意識の世界、波動の世界というものを、もう一度自分の中で見つめ直す良いきつかけになるかもしれません。

そして、それらの実験を経て、最後は瞑想しかないことを知っていただきたいと思います。

自分の中の反転、そして意識の流れを本当に自分で確信しているか、ぶれないで学んでいきましょう。

反逆してきた心を、本当に見てこられましたか。

今、その心に反転のエネルギーを伝えていきますか。

田池留吉の世界に反逆する心とは、自分に反逆する心です。自分に刃を向ける心です。

その心を見ずに、その心をうやむやにしたままでは、田池留吉の磁場に心の針を合わせることは叶いません。どんなに喜びだ、温もりだと言つても、その基盤は肉です。

長く学ばれてこられた方の中で、案外その部分を軽く流しておられる方があるのではないでしようか。

磁場、反転の実践の中で、そして磁場、反転の瞑想の中で、精査していきましょう。

九一 UTAの輪。

どうぞ、田池留吉の磁場に心を向けて、お母さんに心を向けて、自分が今その肉体を持つて学ばせていただいている幸せに心を向けて、ともに、ともに学んでいきましょう。

私達は、本当の自分を捨て去りました。喜びと温もりを捨て去りました。それも知らずに肉、形として生きいくことがどんなに愚かなこと

なのか、それぞれの心で本当に分からなければなりません。喜びと温もりの自分を蘇らせていくために、私達はこうして肉という形を持つて学びのチャンスを用意しました。これは千載一遇のチャンスです。

自分の心の針を向けて合わせること以外に、自分を救う道はないことを知つてください。

九二 次のセミナーに向けて、磁場と反転の実践、そして、瞑想を続けておられる毎日だと思います。

インターネットを活用して学んでもいくことは、学びの一つの手段ですが、肝心なことを、どうぞ、お忘れにならないようにしてください。

そこに自分のエネルギーを消費するのではなくて、自分の生活の中で磁場と反転の実践をしているか、そして、心の針を向け合わせられる自分であるか、自分の中を反転していく喜びを感じているか、瞑想を真剣にやっているか等々、絶えず、それらを確認しながら、そういうことにエネルギーを費やしていくください。

学びの本質からぶれないと、な学び方をなさつてください。

九三 メッセージ92から引き続き、もう一度確認します。

学びの本質からぶれないと、な学び方をなさつてください。

草書体で書かれた愛は、何のために皆さん的手元に用意されているのでしょうか。

色々と活用範囲を広げながら、しかし、どうぞ、その時のご自分の心を見ることをお忘れにならないでください。

学びの本質とは何かを確認しながら、ぶれずに学んでください。

最もエネルギーを注ぎ込むところはどこなのか、決して間違わないでください。

喜びで活用するのと、欲で活用するのとでは雲泥の違いです。その境

目が曖昧なままでは、学びの本質からべています。それは、活用することイコール学んでいることだとうふうにすり替わっていくことを意味します。

草書体の愛はお札、お守りではあります。

そして、学びの本質は、自分の心を見ることです。磁場に向ける瞑想と反転の実践です。



《UTA会からのお知らせ》

来年3月開催の第15回UTA会セミナーが、出版記念セミナーとして開催されることになりました。そのため、現在UTA会会員でない方も参加することができます。

また、来年度からUTA会の会費が2,000円に変更になり、冊子等の配布はなくなる予定です。詳しくは、内容が決まり次第、UTA会のホームページでお知らせいたします。

● UTA会状況とお知らせ

1) 2012年度UTA会の11月1日現在の会員数は以下の通りです。

- ・正会員 887名（海外在住者17名含む）
- ・準会員 56名（海外在住者3名含む）

2) 今年度の発行予定

2012年 5月 機関誌「UTA会だより第7巻」発送済み

冊子「意識の流れ あなたに語り掛けましょう 第3巻」発送済み

7月 冊子「その人、田池留吉 第4巻（ホームページより）」発送済み

10月 冊子「意識の流れ 田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう 第1巻」発送済み

11月 機関誌「UTA会だより第8号」本号

2013年 1月 冊子「意識の流れ 田池留吉の磁場を思い瞑想をしよう 第2巻」発送

※以上を予定していますが、変更になる場合もあります。また、これ以外にも新刊本の図書館への寄贈、本の音訳CDの視覚障害者施設への寄贈が予定されています。

3) 来年度2013年度UTA会の開催予定

2013年度も、年5回のUTA会開催を予定しています。日程は下記の通りです。

| |
|--|
| ◆第16回UTA会 5月19日(日)～21日(火)／前日泊 5月18日(土) 申込期間 4月8日(月)～4月30日(火)／キャンセル連絡日 5月3日(金) |
| ◆第17回UTA会 7月21日(日)～23日(火)／前日泊 7月20日(土) 申込期間 6月10日(月)～7月1日(月)／キャンセル連絡日 7月5日(金) |
| ◆第18回UTA会 9月29日(日)～10月1日(火)／前日泊 9月28日(土) 申込期間 8月19日(月)～9月9日(月)／キャンセル連絡日 9月13日(金) |
| ◆第19回UTA会 12月15日(日)～17日(火)／前日泊 12月14日(土) 申込期間 11月5日(火)～11月25日(月)／キャンセル連絡日 11月29日(金) |
| ◆第20回UTA会 2014年3月23日(日)～25日(火)／前日泊 3月22日(土) 申込期間 2月10日(月)～3月3日(月)／キャンセル連絡日 3月7日(金) |

※キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

5) 今年度、2012年度のUTA会セミナー代金について

すでに配布されました機関誌UTA会だより第7号でもお知らせいたしましたように、前年度は繰越金が発生しましたので、それを今年度2012年度のUTA会セミナー料、5回分すべてに充当しています。充当の内訳は、次の通りです。

大人1泊につき500円を充当し、10,000円のところを9,500円とします。

2泊では、20,000円が19,000円になります。

但し、前日泊、及び幼児・小学生代金に関しましては、今まで通り変更はありません。

また来年度、2013年のUTA会セミナー代金に関しましては、今年度の繰越金を見て決めさせていただきたいと思います。

【UTA会セミナーの同室希望の変更について】

第10回UTA会にて、久保幹事長よりお知らせしました「セミナーでの同室希望」について、2012年度、5月開催の第11回UTA会より、下記の通りに変更させていただいているます。

また、同室希望の申込方法も、第11回UTA会より変更させていただいているので、今後も同じく、よろしくお願ひいたします。

※ 同室希望の条件

- ① 80才以上の高齢の方で、家族等の介護が必要な方。
- ② 今現在、病気治療中で、家族、または他者の介助がなければ参加が難しい方。
- ③ 小さいお子様をお連れの方。(原則として、お子様はお母様、または保護者の方と同室になります。)

※ 同室希望の申込方法

上記の条件を満たし同室を希望される方は、参加費用を振り込む前に、久保幹事長へ電話をされて、同室希望の了解を得てください。その後、郵便局から参加費用をお振込みください。すでに了解を得ている方は、再度、了解を得る必要はありません。
(久保幹事長の了解を得ずに、振込用紙に記載された同室希望は無効とさせていただきますので、ご了承ください。)

※ 連絡先 久保幹事長 TEL 0721-55-4666

※ なお、この度、同室希望について変更させていただく理由は、今まで上記以外の家族、夫婦等での同室希望をお受けしていましたが、同室希望が多く寄せられるようになり、定員数に満たない人数で使用する部屋が増えたため、ホテルから申込者数分の部屋数を貰っても、部屋が足りない状況になったためです。また、一部屋に定員(5、6名)で入られる参加者様との不公平感も一つの理由にあります。

また、セミナーで色々な方と一緒に部屋になることも勉強の一つかと思いますので、ご

理解、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

6) UTA会セミナーの録画配信について

第12回UTA会より、セミナー終了後に、セミナー全日程の様子を録画で配信しています。ダウンロードもできますので、詳細はUTAブックのホームページをご参照ください。(なお、海外在住の方に限り、セミナーをライブ配信しています。)

● 次回のUTA会セミナーのご案内

1. 開催日時と場所 (遠方から参加される方のために、前日泊も設けています)

① 開催日程

◆第14回UTA会

2012年12月9日(日)～11日(火) 参加人数800名

2012年12月8日(土) 前日泊 参加人数300名

9日(日) 13:30～17:00 (12:00開場)

席決めの抽選を12:45より行います。

10日(月) 10:00～17:00

11日(火) 10:00～12:00 (会場は14:30まで使用できます)

【申込受付期間】 2012年10月29日(月)～11月19日(月)

【キャンセル連絡日】 2012年11月23日(金)

◆第15回UTA会 (出版記念セミナー)

2013年3月17日(日)～19日(火) 参加人数800名

2013年3月16日(土) 前日泊 参加人数300名

17日(日) 13:30～17:00 (12:00開場)

席決めの抽選を12:45より行います。

18日(月) 10:00～17:00

19日(火) 10:00～12:00 (会場は14:30まで使用できます)

【申込受付期間】 2013年2月4日(月)～2月25日(月)

【キャンセル連絡日】 2013年3月1日(金)

※ この出版記念セミナーに限り、UTA会会員以外のどなたでも参加することができます。ただし、家族の方の反対を押し切っての参加、または、義務教育中のお子様の学校を休んでの参加は、お断りいたします。

ご不明な点は、お問い合わせください。

※ キャンセル連絡日の翌日より、キャンセル料が100%かかります。

② 会場 琵琶湖グランドホテル

〒520-0101 滋賀県大津市雄琴6-5-1 / TEL 0775-79-2111

2. 参加申込日程と参加料金 (料金にはセミナー会場使用料も含まれています)

| 申込日程 | | 会員料金 |
|-----------|---------|---------|
| 前日泊 | 夕食・朝食付 | 10,500円 |
| 前日泊+全日程 | 3泊4日8食付 | 29,500円 |
| 前日泊+前半1泊 | 2泊3日5食付 | 20,000円 |
| 全日程 | 2泊3日6食付 | 19,000円 |
| 前半1泊／後半1泊 | 1泊2日3食付 | 9,500円 |

※ 初めて参加される方の参加料は、会員と同じです。但し、会員でない方のUTA会参加は、初回のみとさせていただきます。

※ 小学生、幼児は別料金になりますので、ホームページをご参照ください。

3. 申込方法について

① 申込期間内に、お近くの郵便局に備え付けの青い振替払込書にて、UTA会セミナー料金をお振り込みください。それで受付とさせていただきます。

② 振替払込書に、氏名、会員番号、申込日程を、必ず明記してください。布団、食事を必要としないお子様の名前、年齢も、ふりがな、必ず明記してください。

※ 複数名でお申し込みの場合は、それぞれの氏名、会員番号、申込日程を必ず明記してください。

※ 同室希望については、第11回UTA会より変更させていただきました。

[同室希望の条件]

① 80才以上の高齢の方で、家族等の介護が必要な方。

② 今現在、病気治療中で、家族または他者の介助がなければ参加の難しい方。

③ 小さいお子様をお連れの方。(原則として、お子様はお母様、または保護者の方と同室になります。)

[同室希望の申込]

上記の条件を満たし同室を希望される方は、参加費用を振り込む前に、久保幹事長へ電話をされて、同室希望の了解を得てください。その後、郵便局から参加費用をお振込みください。

(久保幹事長の了解を得ず、振込用紙に記載された同室希望は無効とさせていただきますので、ご了承ください。)

[連絡先]

久保幹事長 TEL 0721-55-4666

※ 簡易ベッドについて、第8回UTA会より有料となりました。

簡易ベッドをご希望の方は、ベッド代として1泊につき500円の代金を、セミナー料に加えて一緒にお振り込みください。

なお、セミナーでベッドをご希望のされる方が増えており、用意できる簡易ベッドの数に限りがあるため、ご希望の方全員にベッドを用意することが難しくなりました。

そのため簡易ベッドのご希望は、車椅子をご利用の方、または病気等でどうしてもベッドが必要な方とさせていただきます。また、ベッドのご希望に添えない場合には、その旨、ご了承いただきたいと思います。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

※ 会員でない方が、初めて参加される場合は、振込払込書に、氏名、ふりがな、申込日程、住所、電話番号、性別、年齢、メールアドレスを明記してください（性別、年齢等はUTA会の部屋割りに、メールアドレスは受付確認メールの送信に必要となります）。

但し、会員でない方のUTA会参加は、初回のみとさせていただきます。なお、会員でない方の参加は、今までに開催されたセミナー、勉強会等に一度も参加されたことのない、まったく初めての方のみ、受け付けさせていただきます。

※ 交通機関のご都合等で、UTA会最終日に昼食が不要の方は、「食事不要」と振込用紙に記載してくださるよう、お願ひいたします。

③ 振込先（振込口座番号、入金金額は、必ず確認をお願ひいたします）

口座番号：01700-5-140092

加入者名：UTA会

④ 入金の確認ができ次第、UTA会受付確認のメールを送信いたします。

なお、郵便振替払込書がこちらの手元に届くまでには4日間ほどかかりますので、確認メールの到着までには、一週間ほどお待ちください。また、メールアドレスをお持ちでない方へは、ハガキにてお知らせいたします。

4. キャンセルについて

- ・キャンセル連絡日までのキャンセルはメールで、また、キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセルは、必ず、久保幹事長まで電話にて連絡をお願ひいたします。
 - ・キャンセル連絡日までのキャンセル料は、無料です。
 - ・キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセル料は、総額の100%です。
 - ・UTA会当日にキャンセルされる場合でも、必ず、久保幹事長まで電話連絡をお願ひいたします。
- （なお、久保幹事長の連絡先は最終ページに掲載しています。）

5. 参加についてのお願い

- ・参加のお申し込みは、必ず、期間内にお願いいたします。
- ・義務教育中のお子様の学校を休んでの参加、または幼児、小、中学生の保護者同伴なしでの参加は、ご遠慮ください。
- ・家族（夫、妻、舅、姑、子供…）に、UTA会への参加を反対されている人、または家族、職場に対して嘘について参加することは、ご遠慮ください。
- ・参加費用を借金してUTA会に参加することは、ご遠慮ください。
- ・ホテルや他の宿泊客に迷惑をかける人、またはUTA会の進行を妨げるような行動を取る人は、参加をご遠慮ください。
- ・参加者同士がトラブルを起こした場合、当事者間で解決が見られるまで、参加をご遠慮ください。
- ・セミナー期間中の個人的な物品の販売は、ご遠慮ください。
- ・お子様達の過ごす〔子供部屋〕をセミナー会場の外に1室設けています。セミナー中は、お子様達は全員〔子供部屋〕にてお過ごしいただき、保護者の方、または保護者の方々で話し合って交代にするなどして、責任を持ってお子様達の面倒を見るようにしていただきたいと思います。会場内で静かにできるというお子様もおられますが、参加しているお子様は全員、こちらの部屋のご利用をお願いいたします。（但し、小学校高学年で、自分で勉強しようとセミナーに集中されているお子様は、会場にてご参加いただいても構いません。）
- 第12回UTA会より、〔子供部屋〕にてセミナーのライブ映像をご覧いただけるようになりました。
- なお、ホテルのロビーや廊下で遊ばせるのは、ホテルに迷惑がかかりますので、ご遠慮ください。また、音の出るオモチャは迷惑となりますので、ご遠慮ください。

6. セミナー会場の座席、及び開場時間についてのお願い

毎回、セミナー会場での座席は抽選くじで決めさせていただいておりますが、最近、抽選くじで当たった番号以外で座る方や、友達同士で抽選くじ番号以外で纏まって座る方々がいるなど、参加者の方々から苦情が寄せられております。また、セミナー会場の椅子席が足りなくなる状況が出ています。そこで、セミナーに参加される皆様へのお願いです。

① 座席について

セミナー会場での座席は、田池先生ご夫妻、塩川さん親子、UTA会責任者の久保夫妻の6人以外の方は、必ず、抽選くじを引いて、当たったご自分の番号でお座りください。友人等、他人の番号で座るのはおやめください。また、家族で参加されている方は、抽選くじは家族で1枚引いていただき、その番号でお座りください。

なお、初参加の方の席は、こちらで「初参加者席」という紙を置いた席を用意しますので、そちらにお座りください。初参加者を紹介された方も一緒に座ってください。結構です。

②椅子席について

毎回、足の悪い方、ご病気の方、高齢の方、難聴の方、初参加者のために、椅子席を用意しております。セミナーは床に座って受けさせていただくのが基本となっております。ご事情により、長時間、床に座るのが辛い方のための椅子席ですので、健康な方は抽選くじを引かれて、床に座ってご参加ください。

③セミナー会場の開場時間について

セミナー会場の開場は12時です。セミナーの準備等がありますので、開場時間前にセミナー会場に入るのはご遠慮ください。開場時間まで、ロビー等でお待ちください。

※ セミナーに参加されている方は、どなたも前へ座りたいというお気持ちは分かりますが、抽選で座席を決めるというルールをお守りいただきたいと思います。

なお、抽選時間前にハンカチ等で座席を取られている場合、また、12時開場前に椅子席にハンカチ等で席を取られている場合は、ハンカチ等を撤去させていただきますので、予め、ご了承ください。

7. 会場ホテルへのアクセス

・電車をご利用の方

大阪・東京方面→JR京都駅→JR湖西線「おごと温泉駅」下車(JR京都駅より20分)
→琵琶湖グランドホテル (JRおごと温泉駅よりホテルの送迎バスにて5分)

・自動車をご利用の方

大阪・東京方面→名神高速道路 京都東IC→西大津バイパス仰木雄琴IC→
国道161号線→琵琶湖グランドホテル (仰木雄琴ICより5分)

【連絡先】

・お問い合わせは、UTA会サポートまでメールでお願いいたします。

メールアドレス：support@utakai.net

・キャンセル連絡日までの変更、及び、キャンセルは、上記UTA会サポートまでメールで、キャンセル連絡日を過ぎての変更、及び、キャンセルは、下記まで電話でご連絡ください。

また、同室希望のお問い合わせも、下記まで電話でご連絡ください。

幹事長 久保明子 TEL 0721-55-4666

※ UTA会のホームページ (<http://utakai.net/utakai/index.html>) でもセミナーの案内等を掲載していますので、ぜひ、ご参照ください。